

## 阿蘇山の火山活動解説資料

福岡管区气象台  
火山監視・情報センター

＜噴火警戒レベル2（火口周辺規制）が継続＞

阿蘇山では、活発な噴火活動が続いています。

昨日（9日）夜間の噴火では、小さな噴石が風に流されて中岳第一火口の南西～西側1kmを超えて落下しました。

### 【防災上の警戒事項等】

中岳第一火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るため注意してください。火山活動の状況により、強風に流された小さな噴石が1kmを超えて飛散する可能性があります。

今後も火山活動や気象状況に注意してください。

### ○ 噴火の状況（図1）

阿蘇山の中岳第一火口では、11月25日から噴火が継続しています。

昨日（9日）は、噴煙の高さは600m以下で経過しました。

草千里に設置した遠望カメラ（高感度カメラ）では、火口縁を超える赤熱した噴石を夜間に時々確認しました。

### ○ 9日夜間の火口周辺の風向・風速の状況（表1）

阿蘇山では、9日19時頃から21時頃にかけて強い風が吹き、阿蘇山特別地域気象観測所では9日20時20分には、東北東の風18.6m/sの最大風速を観測しました。

熊本地方気象台のホームページで、阿蘇山（中岳）上空およそ1,500メートルの風を確認することができます。

<http://www.jma-net.go.jp/kumamoto/volcano/index.html>

### ○ 現地調査の状況（図2）

本日（10日）福岡管区气象台、熊本地方気象台が実施した現地調査では、中岳第一火口の南西側500m付近で最大約20cmの小さな噴石が落下していることを確認しました。また、中岳第一火口の南西側の1.2km付近で、5～10cmの小さな噴石を確認しました。

---

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、九州大学、独立行政法人防災科学技術研究所及び阿蘇火山博物館のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』『基盤地図情報10mメッシュ（標高）』『基盤地図情報（基本項目）』を使用しています（承認番号：平23情使、第467号）。

○ 火山活動の状況（図3～5）

火山性微動の振幅は大きい状態が継続しています。

GNSS<sup>1)</sup> 連続観測では、古坊中ー長陽（国）の基線にわずかな伸びの傾向が認められます。

9日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり2,300トン(前回11月18日、2,600トン)と多い状態でした。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。



図1-1 阿蘇山 噴火の状況（12月9日、草千里遠望カメラによる）  
噴石が火口縁上300mまで上がりました。



図1-2 阿蘇山 噴火の状況（12月9日、草千里遠望カメラによる）  
赤熱した噴石が中岳第一火口の南西側斜面へ落下していました。

表1 阿蘇山 阿蘇山特別地域気象観測所の平均風速と風向、前1時間最大瞬間速と風向、前1時間最大瞬間風速の起時（9日18時～24時）

時刻	平均風速	風向	前1時間最大瞬間風速	前1時間最大瞬間風速の風向	前1時間最大瞬間風速の起時
18時	7.8m/s	北東	14.7m/s	北北東	17時52分
19時	16.7m/s	北東	22.4m/s	東北東	18時56分
20時	17.5m/s	東北東	24.7m/s	北東	19時37分
21時	16.5m/s	東北東	23.8m/s	北東	20時12分
22時	11.0m/s	東北東	20.9m/s	東北東	21時07分
23時	6.3m/s	東南東	18.1m/s	東北東	22時06分
24時	4.1m/s	南南東	8.7m/s	南南東	23時15分

9日18時から22時頃にかけて、強風を観測しました。

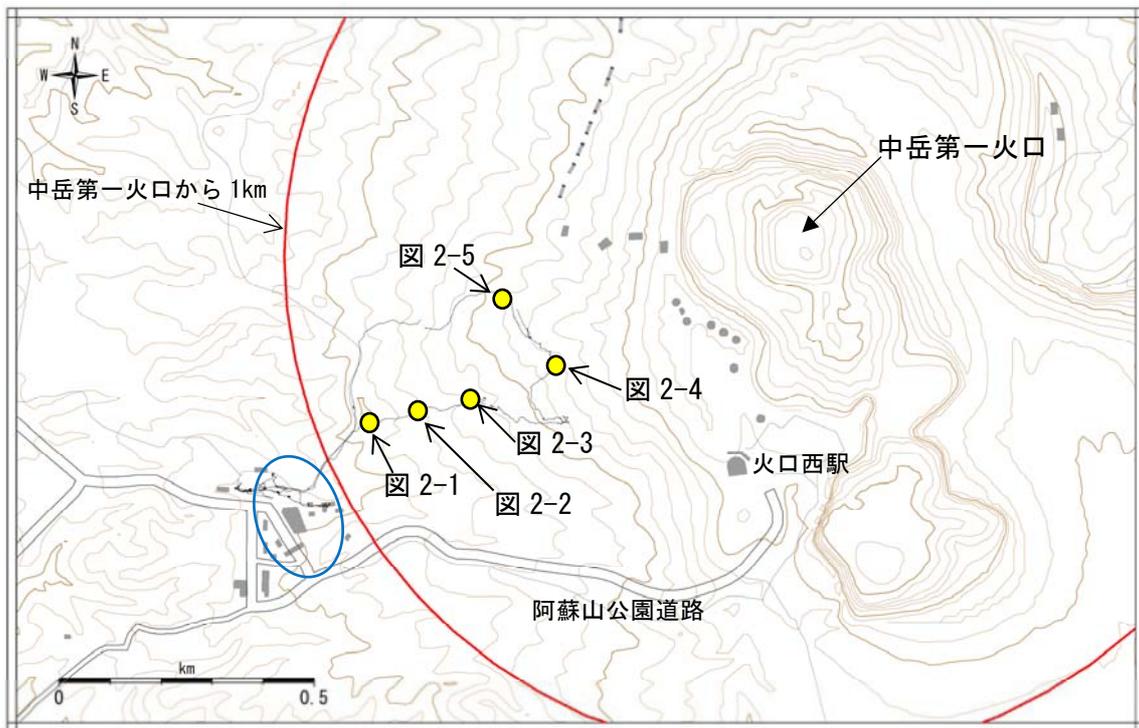


図2 阿蘇山 10日に実施した噴石の調査範囲

中岳第一火口の南西側の約1.2km付近で、5～10cmの小さな噴石を確認しました（青丸）



図 2-1 阿蘇山 噴石の大きさ約 14cm



図 2-2 阿蘇山 噴石の大きさ約 13cm



図 2-3 阿蘇山 噴石の大きさ約 20cm



図 2-4 阿蘇山 噴石の大きさ約 20cm



図 2-5 阿蘇山 噴石の大きさ約 18cm



図3 阿蘇山 GNSSS 連続観測による基線長変化 (2010年10月1日~2014年12月9日)

古坊中-長陽(国)の基線にわずかな伸びの傾向が認められます(赤丸)。

この基線は図4の赤い線に対応しています。



図4 阿蘇山 GNSSS 連続観測点

小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国)：国土地理院

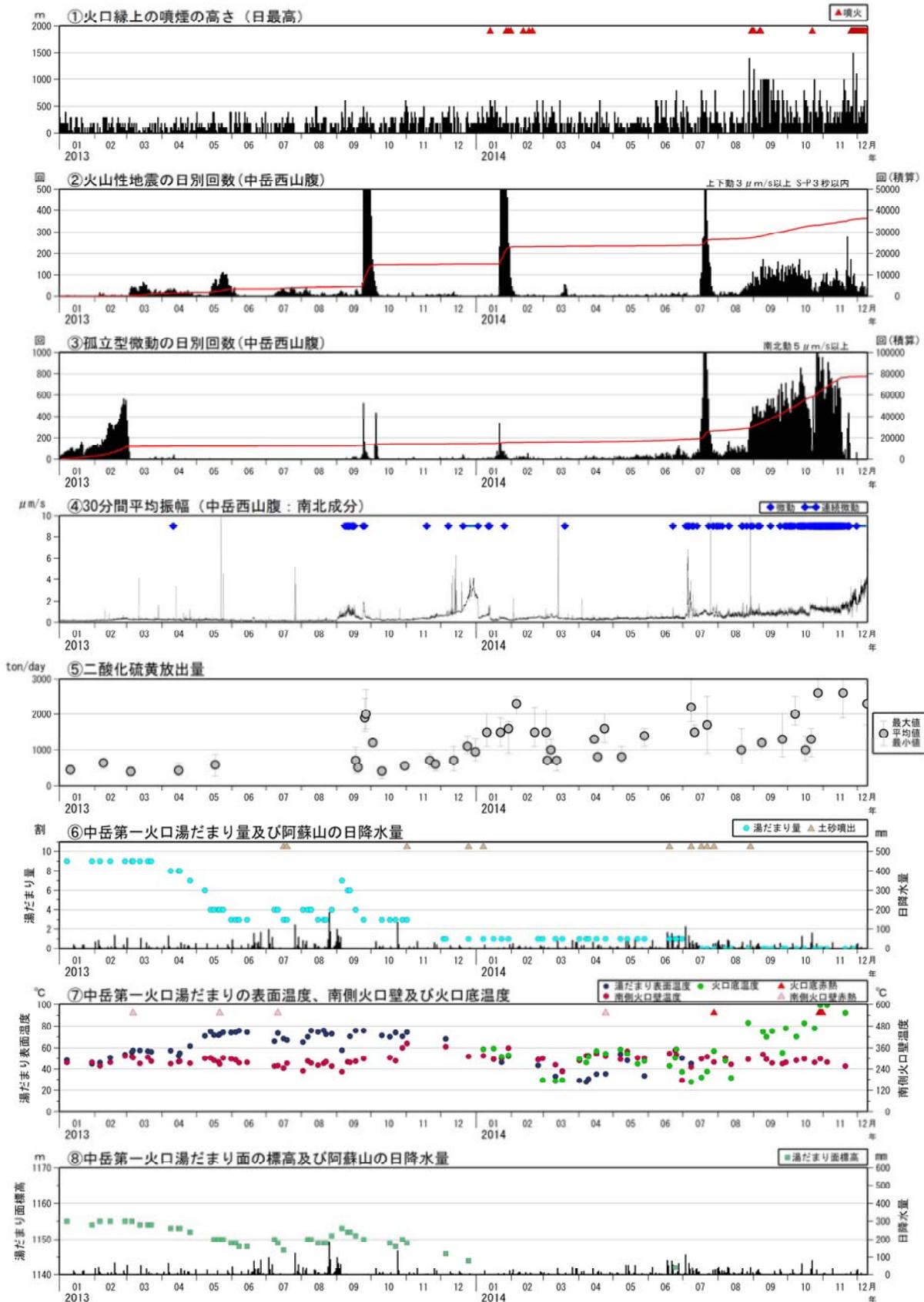


図5 阿蘇山 火山活動経過図 (2013年1月～2014年12月9日)

- ・火山性微動の振幅は大きい状態が継続しています。
- ・12月9日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は引き続き多い状態でした。